

(公財) やまがた育英会

駒込学生会館 板橋学生会館

寮生保護者 各位

(CC:評議員、監事、理事各位)

33名が壮途に就く

～前途に幸あれ～

春は出会い、そして別れの季節。弥生も中旬を過ぎると、一人またひとりと寮を去っていきます。布団を除けば抱えられるほどの荷物で引越しをする男子もいれば、玄関先に運んだ段ボールが20個もある女子と、退寮風景にも学生の個性がにじむことを感じます。退寮した号室からクリーニング作業が始まりますが、ガランとした部屋を見ると少し寂しい気持ちにもなります。

寮を去るにあたり「事務室の皆様へ」ときれいな手書きで手紙を置いていってくれた学生がいますので本人の承諾を得て一部ご紹介します。

<手紙抜粋>

『4年間お世話になりました。引越しの準備が終わり、きれいに片付いた部屋を見て入寮の時を思い出し、懐かしく思うと同時にさみしい気持ちでいっぱいです。(中略) 当たり前だったあいさつ、ご飯も明日からは無いと思うと、本当は当たり前ではなくしあわせなことだったんだなあと気づきました。大学生活をこんなにも濃い充実したものにできたのは、この寮だったからと本当に思います。大好きな寮です!』(山科 知子 お茶の水女子大4年)



卒寮生とOB・OGが笑顔で(1/26の予饗会)

ハーバード大学が75年にわたって研究した「人の幸せとは何か」という問いの答えは「金や富ではなく『同じ志をもつコミュニティで頼り頼られ生きること』」であるとの記事がある雑誌で紹介されていました。寮生活では「頼り頼られ」が日常茶飯としてあります。他者への感謝、思いやりの涵養に繋がっているかもしれません。そんなことを踏まえての手紙だと寮運

営を預かる身として励ましをもらった気持ちです。昨年7月から寮監職を拝命し、至らぬことも多くありますが、上級生らしい落ち着きで新米寮監に助言をしてくれるなどいろんな場面で助けてもらいました。卒寮する学年はコロナ禍真っ最中で大学の講義受講にも苦労したと聞きました。それを乗り越えての卒業おめでとうございます。卒寮生のみなさんには本当に感謝です。

今年は就職や大学院進学などで33人が新たな道を歩むことになりました。健康に留意して新天地での活躍と健勝を理事役員・事務局一同心よりお祈りいたします。寮祭など行事には顔を出して元気な姿を見せてください。お待ちしております。卒寮生のみなさん、ありがとう！！

140人が集い追悼

～前寮監 和田 豊さんを偲ぶ会～



学生寮協議会、卒寮生、ゆかりのある人たちが駆け付けた

2月23日(日・天皇誕生日)午後1時から「前寮監 和田豊さんを偲ぶ会」が駒込学生会館多目的ホールで行われました。参列者全員で黙とうを捧げた後、鈴木礼子代表理事がお別れの言葉を述べ、続いて全国学生寮協議会の岩橋誠会長(佐賀県松濤学舎)が追悼の言葉を奉呈し、和田さんの功績をたたえ、また遺徳をしのびました。また、こうした席では必ずと言っていいほど歌われる磯部俣作詞・作曲の「遙かな友に」を、芸術を愛する故人に届けとばかり合唱し、こみ上げる思いに涙する方もありました。

献花の後、ゆかりの深かった方々が次々とマイクの前に立ち、和田さんの在りし日やそのお人柄、思い出を話し、「これが正しいと誰でも思うような仕事に自分の時間を捧げるのは、つまらないよ」、「極端こそ我が命」と言って憚らなかった破天荒な人生と「マナー>ルール」を寮運営の基本方針に掲げた寮生思いの和田さんを偲びました。

わざわざ山形から駆けつけた関係者やOB、OGも多くいて、在寮生併せて140人あまりが遺影に手を合わせました。これも和田さんの人徳であり質素な中にも温かい偲ぶ会となりました。ご参列いただいた皆様に紙面をお借りしてお礼申し上げます。



お別れの言葉を述べる鈴木代表理事



花に囲まれた遺影に



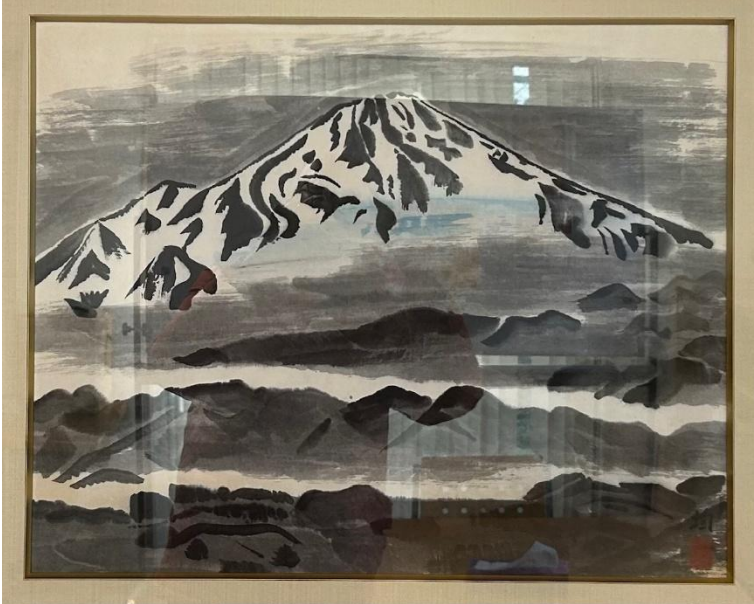
育英会の理事・役員などが次々に献花

(写真提供：2015年卒寮 深瀬祥平さん)

「やまがた育英会」美術品シリーズ④

駒込学生会館、板橋学生会館には多くの絵画や美術品が飾られています。それをシリーズで紹介しています

板橋学生会館 談話室の日本画 **出羽富士**



◇作者 小松 均 (こまつ・ひとし
1902-1989)

◇大きさ タテ 40 cm×ヨコ 50 cm
(ガラス反射をお許しください)

【略 歴】

- ・日本画家
- ・大石田豊田生まれ 16歳まで村山市白鳥に住む
- ・川端画学校卒 土田麦僊に師事
- ・1979年 「雪の最上川」で 院展 内閣総理大臣賞受賞
- ・1986年 文化功労者
- ・大石田名誉町民 村山市名誉市民

山形県の発展を担う人材になって欲しいけれど

～説明会や座談会が～

100人を超える20歳前後の若い山形県人が一つ屋根の下に暮らしている。こんな場所は1400万人が住む大都市・東京といえども「やまがた育英会」以外はありません(たぶん)。そこに目を付けるのは山形県内の自治体や県庁。金の卵にいち早く故郷に目を向けさせようと就職情報や採用案内、Uターン支援制度などたくさんのチラシ、パンフ類が送付されてくるほか、波状的に説明会や座談会が多目的ホールで実施されています。

昨年秋には山形市と酒田市、年末には庄内総合支庁、そして今年13日には、山形県人事委員会と県警の担当者が来寮し、「ざっくばらんな座談会」と題して肩ひじ張らない説明会を開きました(右写真)。大学が春休み中ということもあり、参加者は多くはありませんでしたが、互いに面と向かって話をする中で、担当者からは「学生の皆さんに県職員の魅力を伝えることができ有意



寮生必見 山形県職員・警察職員

ざっくばらんな座談会

予約不要 出入自由

山形県庁の優しいお兄さんお姉さんが
分かりやすく話してくれます
ざっくばらんに何でも聞いてください
お菓子・飲み物あるよ!!

山形県職員・警察職員の仕事内容、給与や休暇、職場の雰囲気など気になることなんでも聞いてください!

2025 **3.13** (木) 18:00-21:00
駒込学生会館 多目的スペース

私たちがお答えします

山形県職員・警察職員は、学生生活に役立つ情報を提供します。

義な時間だった」、また出席した学生からは「県職員に少し興味が湧いた」、「勉強頑張ります」などの声が聞かれました。

今年の4年生の就職状況を見ると卒業生で山形県に戻るのは3人（県庁1人、民間企業2人）でした。中には「都内企業に就職するが、いずれ山形に戻って起業したい」という学生もいます。今は都会にいたくともリモートで仕事ができますし、またどこにいても故郷に貢献できる時代です。育英会としては山形県の発展を担う人材となってもらいたいと思う一方、故郷に帰る、帰らないよりも、大きな可能性を秘めた未来や自分の夢に向かって挑戦してほしいと願っており、その環境づくりを今後も続けていこうと考えています。

ということで下記もその一端！

国際的視野を持つ人材の育成に

～ 海外留学支援制度を作りました ～

寮生が海外の国・地域の人々や異文化に触れ合うことを奨励し、国際的視野を持つ人材の育成に寄与すること目的として、令和7年度からの「寮生海外留学（遊学）支援制度」を創設しました。

学生時代に海外への目を見開いてもらうため、半年以上の長期留学ばかりでなく数週間の短期留学、8日以上海外旅行も対象としています。多くの寮生の応募をお待ちしています。

（公財）やまがた育英会「寮生海外留学（遊学）支援制度」（案）

- 【支援内容】 1人10万円を支給
- 【申込手続】 A4用紙1枚に①目的②渡航内容等を記し代表理事宛てに提出
- 【募集人員】 8名程度（人数は前年度の寄付金額をもとに理事会で決定）
※募集人員に達しない時は8月下旬～9月中旬に後期募集を行う
- 【募集期間】 3月28日（金）～5月20日（火）
- 【決 定】 5月開催の理事会で決定し通知
- 【帰国報告】 代表理事宛てりポート提出により帰国報告。また寮会等でも発表する
帰国報告で在寮生に刺激を与え、発表者にはプレゼンテーションスキルを
上げる機会にもしたいと考えています

※3月22日開催の臨時評議員会で制度設置が承認されました。会議では「人数を絞って支援額を厚くしては」「1回目を成功させる必要がある」「専門のサポートも必要」など制度を良くするための様々な意見が出されました。これらも参考にして詳細を詰めてまいります。

（公財）やまがた育英会 寮監 石井 隆

ご意見、ご感想をお待ちしています

t-ishii@yamagata-ikueikai.or.jp